



西中だより

第4号 令和5年5月12日(金)

学校教育目標 「知を磨き、豊かな心とたくましい体をもった生徒の育成」

発行：校長 寺田 是

一年生が正式入部し、朝練習が始まりました

右の写真は昨日(5/10)の朝練習の様子です。

一年生が正式入部し、今週から朝練習にも参加しています。本校の朝練習は7:30から開始となっています。

小学校と比べると早い登校になりますが、多くの生徒が意欲的に取り組んでいる様子が見えます。ご家庭の方では、7:00過ぎには家から送り出すような状況で大変だとは思いますが、ご協力をお願いします。

朝練習によって技術の向上やチームワークが高まることはもちろん大事ですが、自分で朝早く起きて登校するという生活リズムが確立することも期待したいところです。



コロナウイルスの5類移行に伴い対応が変更になります

5月8日に、新型コロナウイルス感染症が5類に移行(インフルエンザと同じ分類)したことを受け、社会全体の対応が大きく変わり(例えば、)大きな節目を迎えています。学校現場もその例に漏れず、様々な対応の変更があります。5月2日付通知(「新型コロナウイルス感染出席停止期間等について」)では、出席停止期間が「発症後5日を経過し、かつ症状が軽快した後1日を経過するまで」に変更になることをお伝えしました。

その後、GWあけに、県教育委員会及び文部科学省の考え方を踏まえた市教育委員会よりの通知があり、出席停止の対象を、「①生徒本人が感染した場合、②感染している疑い及び感染するおそれがある場合」とすることとなりました。「②感染している疑い及び感染しているおそれ」については、今後、市教育委員会より、その条件が示される見通しですので、その時点で、あらためて、出席停止の対象等に関する通知をご家庭にお配りします。一方で、コロナウイルスの感染が収束したわけではありませんので、換気、手洗い、咳エチケット、健康チェックといった基本的な対策は継続していく必要があります。お手数おかけしますが、ご家庭でも引き続きのご協力をお願いします。

中学生はどんな時期?

4/14のPTA学年総会や4/28のPTA総会の折の私の話の中で、「中学生とはどんな時期か」について少し触れました。今回は、もう少し、このことについて書いてみたいと思います。一緒に、「中学生」「思春期」という時期について理解を深められればと思っています。ある臨床心理学者は、「思春期とはサナギのような時期である」として、次のように言っています。

サナギというのは硬い殻に包まれて死んだように動かず、外から見ると何が起きているのかわからない。しかし、サナギの内部ではいもむしが蝶になるという大変な変化が渦巻いている。いもむしが無事に蝶になり飛び立つためには外側に硬い殻を築き、サナギの時代を過ごさねばならない。同様に人間にも、「さなぎ」の時期が必要である。子どもが「さなぎ」の時期に入ると、親としてはどうしていいかわからないような気持ちになるときがある。お互いの間に気持ちの交流がないように感じるからである。子どもがどこか他の世界に行ってしまったように感じる。しかし、焦らずに外側から見守るような気持ちでいると、子どもはだんだんと成長し、またお互い話し合ったり、理解し合ったりできるようになる。サナギから蝶が生れてくるのだ。

この考えに基づけば、思春期を迎える中学生は、今までの自分(例えば、素直で大人の言うことをきいていた自分)をいったん壊して、大人(例えば、自分の頭で考え、判断し、行動できる)になるための格闘をしていると言えます。

そのため、思春期は、多くの子どものとって、自分自身の成長への不安や親への反抗心などから不安定な時期となります。大人が助言をしてもイライラしてしまったり、本人自身もモヤモヤした気持ちになったりする一方で、放置し過ぎると大人から見放された気持ちにもなることが多いようです。

私も、自分自身が中学生だった頃(はるか昔ですが…)の親との付き合い方や自分の心の動きを思い出してみると「なるほど、そうだったな」と思うところがあります。

関わる周りの大人からすれば、難しい時期になりますが、大人になるためには、必要なプロセスなのだと思います。こんな考え方で子どもを見ると、一見理解しがたい子どもの言動も少し理解できるようになったり、心に余裕が生まれる気がします。そういった時期だからこそ、子どもへの理解を深めながら、学校とご家庭が共に、子どもの成長をサポートしていければと思います。

